
6 品目別調査結果 牛肉

1. 概況
2. 調査実施概要
3. 各取引段階の“量”の変化
4. 各取引段階の“価格”の変化
5. 福島県産品に対する認識
6. 調査のまとめ

1. 概況

209

調査結果概要（1/3）

1. 各取引段階の“量”の変化

生産段階

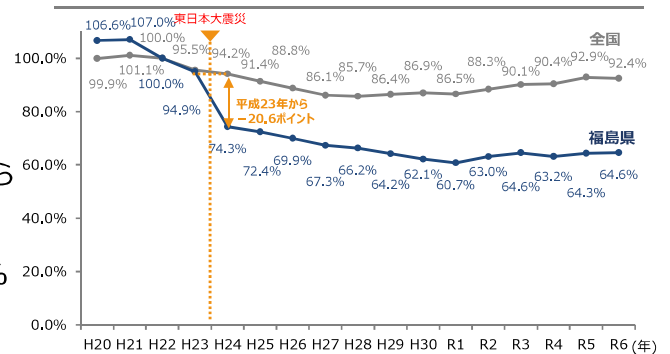
- 福島県産肉用牛の飼養頭数は、平成24年に大幅に減少後、減少傾向が続いたが、令和2年から僅かに増加し、近年は平成22年の60%程度で推移。全国においても、平成23年以降、減少傾向だったが、令和3年以降、平成22年の約90%で推移。

出荷段階

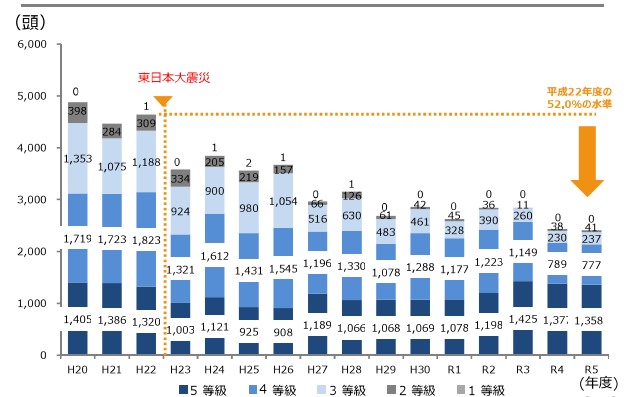
- 東京都中央卸売市場への福島県産和牛（去勢）の出荷頭数は、震災後、減少傾向で推移し、平成29年度以降は概ね横ばいの傾向である。
 - 出荷頭数に占める上位等級（5等級・4等級）の割合は上昇傾向にあり、直近では90%前後の高い比率で推移している。

※「牛肉」とは、「和牛」「交雑種」「ホルスタイン種」を合わせた総称のこと。以下、牛肉全体を指す場合には「牛肉」、うち和牛について特別に言及する場合には「和牛」という用語を用いる。

全国・福島県産肉用牛の飼養頭数の推移（平成22年を100%とした値）



東京都中央卸売市場に対する出荷頭数の推移（福島県産和牛・去勢）



210

2. 各取引段階の“価格”の変化

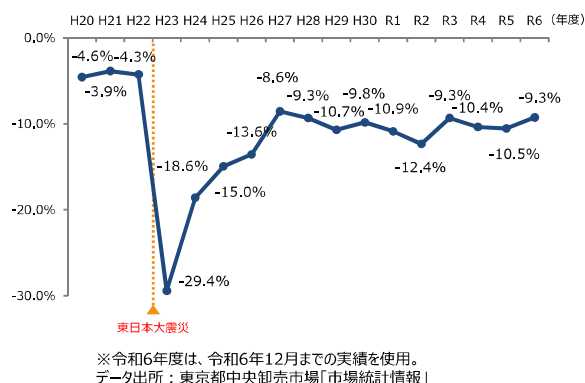
市場における状況

- 東京都中央卸売市場における福島県産和牛の枝肉価格は、震災直後に全国平均との差が拡大した。
- その後、平成27年度にかけて価格差は縮小したが、平成28年度以降は-10%程度で推移している。

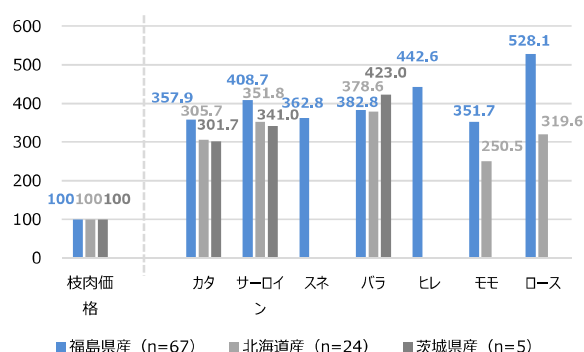
価格事例調査における状況

- 県内市場を経由した福島県産和牛の各部位は、概ね北海道産和牛・茨城県産和牛と比較して価格指数が高い傾向が見られた。
※枝肉価格については、福島県産和牛よりも北海道産和牛や茨城県産和牛の方が高い傾向にある。
- 小売業者ごとの仕入・販売事例では、福島県産は一部の部位を除き、茨城県産よりも低い価格設定となっている。

全国平均との価格差推移（和牛全体）



牛肉の枝肉価格と小売販売価格の比較（部位ごとの産地間比較）



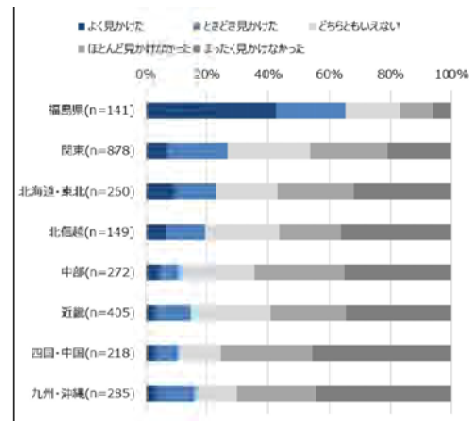
211

3. 福島県産品に対する認識

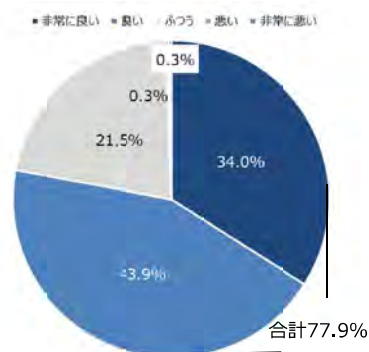
消費者への調査

- 福島県産牛肉を店頭でよく見かけた人の割合は、福島県が高く、他の地域では10%に満たなかった。
➢ 福島県産牛肉を買ったことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では8.0%であった。
- 福島県産牛肉の購入者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が77.9%であった。

福島県産牛肉を店頭で見かけたか



福島県産牛肉購入者の評価 (n=321)



212

2. 調査実施概要

213

調査の全体像

概要調査として政府統計等を整理し、全体像を把握した。また、消費者へのアンケート調査により、消費者の福島県産牛肉の購入実態や評価を把握した。さらに、取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析した。

	概要調査	アンケート調査	追跡調査
概要・目的	- 統計情報を整理し、生産・流通の実態を把握。 - 市場での動向については、競合道県産品との比較分析を行う。	消費者の福島県産品の購入実態や評価を把握する。	- ヒアリングにより取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析する。 - 競合道県産品についても調査の上、比較分析を行う。
調査対象	- 政府統計 - 卸売市場データ	全国の消費者（4,000人）	- 黒毛和種（A3、A4、A5等級のいずれか） - 福島県内食肉流通センター又は県外食肉卸売市場等を経由する流通経路
調査内容	- 福島県における肉用牛の飼養頭数 - 卸売市場への出荷頭数 - 卸売市場における取引価格の競合道県産品との比較	- 福島県産牛肉を店頭で見かけた経験 - 福島県産牛肉の購入経験 - 牛肉購入時の重視点 - 福島県産牛肉の評価	流通ルートを抽出し、取引価格の追跡調査(各取引段階における関係者からの個別データ収集)を行う。
各節との対応	各取引段階の“量”の変化	福島県産品に対する認識	各取引段階の“価格”の変化
	各取引段階の“価格”の変化		

214

各データを収集・分析し、最新の傾向を比較した。アンケート調査や追跡調査については、独自に情報を収集した。

概要調査
使用データ

- ・ 農林水産省「畜産統計」
- ・ 東京都中央卸売市場「市場統計情報」

アンケート
調査

- ・ 全国の消費者にWebアンケート調査を実施。
 - 4,000件を回収し、分析を実施した。

追跡
調査

- ・ 各事業者から入手した仕入データや販売データ等

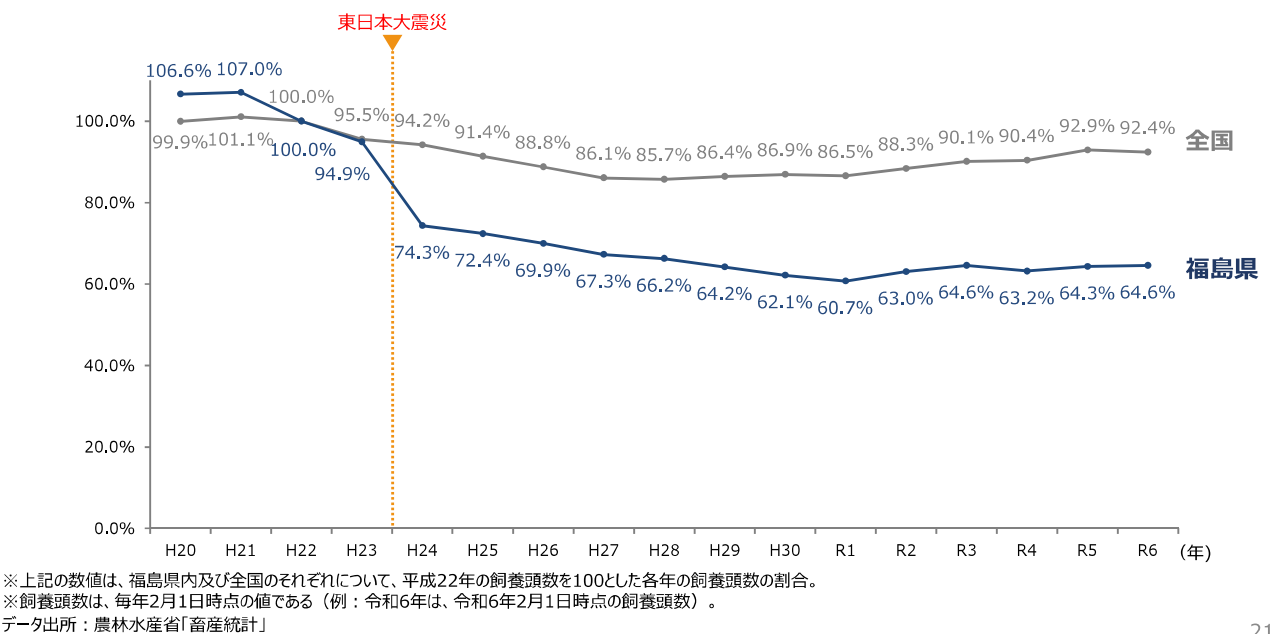
※追跡調査では個社が特定できないようにするとともに、実額を非公表とすることを前提に一部事業者から販売データ等を受領。 215

3. 各取引段階の“量”の変化

福島県産肉用牛の飼養頭数の推移

福島県産肉用牛の飼養頭数は、平成24年に大幅に減少後、減少傾向が続いたが、令和2年から僅かに増加し、近年は平成22年の60%程度で推移。全国においても、平成23年以降、減少傾向だったが、令和3年以降、平成22年の約90%で推移。

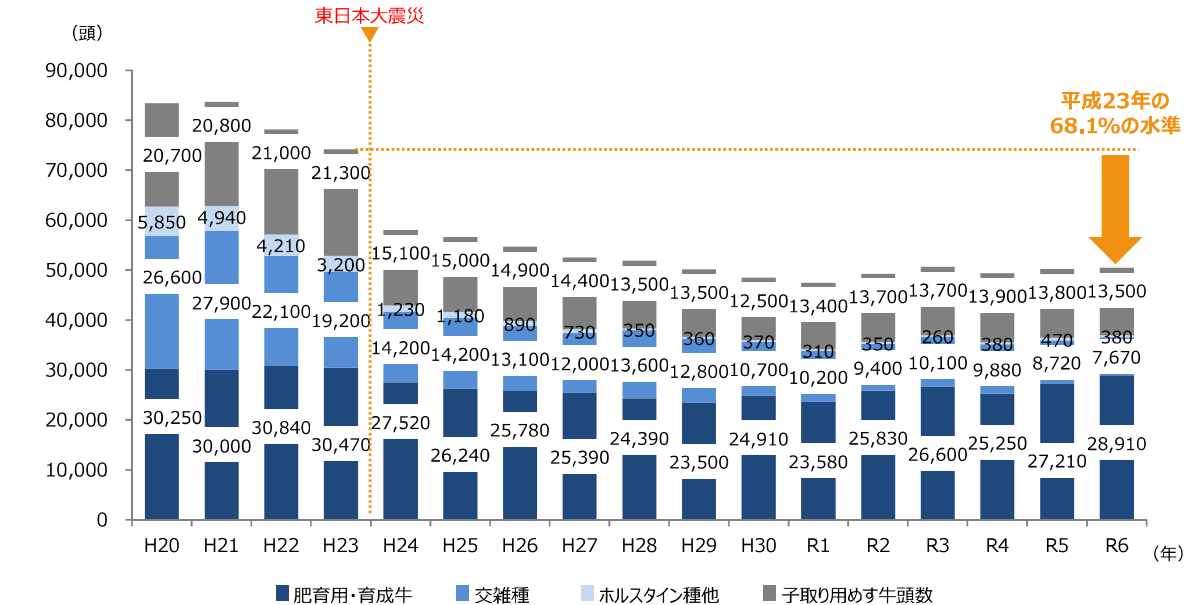
全国・福島県産肉用牛の飼養頭数の推移（平成22年を100%とした値）



福島県産肉用牛の飼養頭数の推移（畜種・飼養目的別）

福島県産肉用牛の飼養頭数は、平成23年から24年にかけてはホルスタイン種や交雑種他、子取り用めす牛頭数において減少が顕著であった。平成24年以降、飼養頭数は概ね横ばいで、令和6年は平成23年の68.1%の飼養頭数となった。

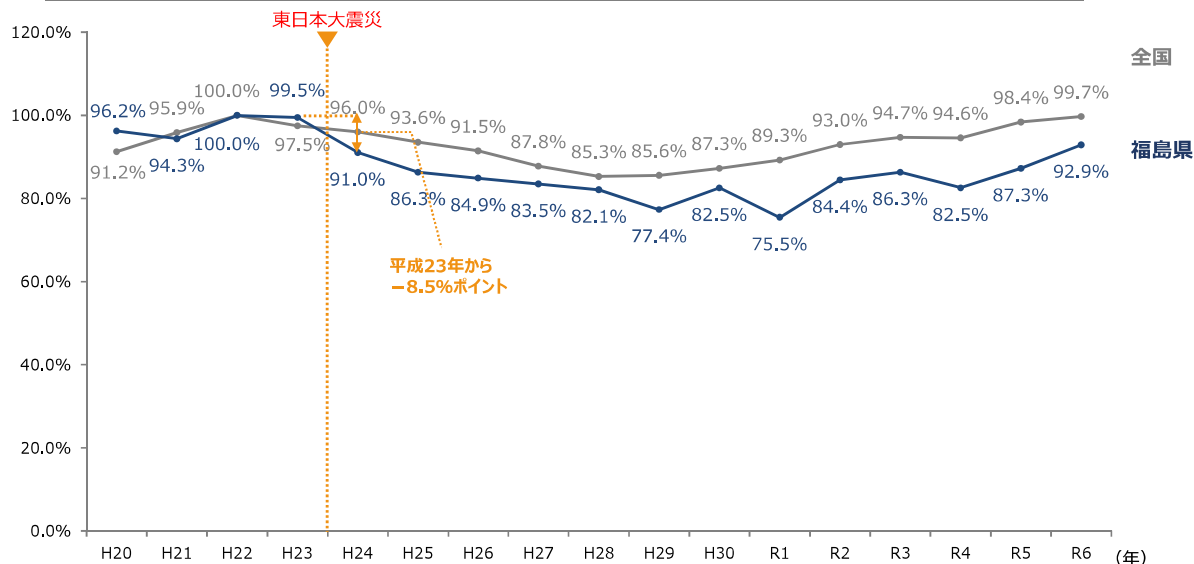
福島県産肉用牛の飼養頭数の推移（畜種・飼養目的別）



和牛の飼養頭数の推移

和牛の飼養頭数は、全国・福島県ともに、平成22年以降減少傾向が続いていたが、近年は増加傾向にある。令和6年の全国平均は平成22年の99.7%となった。また、令和6年の福島県産は平成22年の92.9%となった。

全国・福島県産和牛の飼養頭数の推移（平成22年を100%とした値）



※上記の数値は、福島県内及び全国のそれぞれについて、平成22年の飼養頭数を100とした各年の飼養頭数の割合。

※飼養頭数は、毎年2月1日時点の値である（例：令和6年は、令和6年2月1日時点の飼養頭数）。

※ここでの和牛とは、肉用種の肥育用牛と育成牛の合計値を指す。

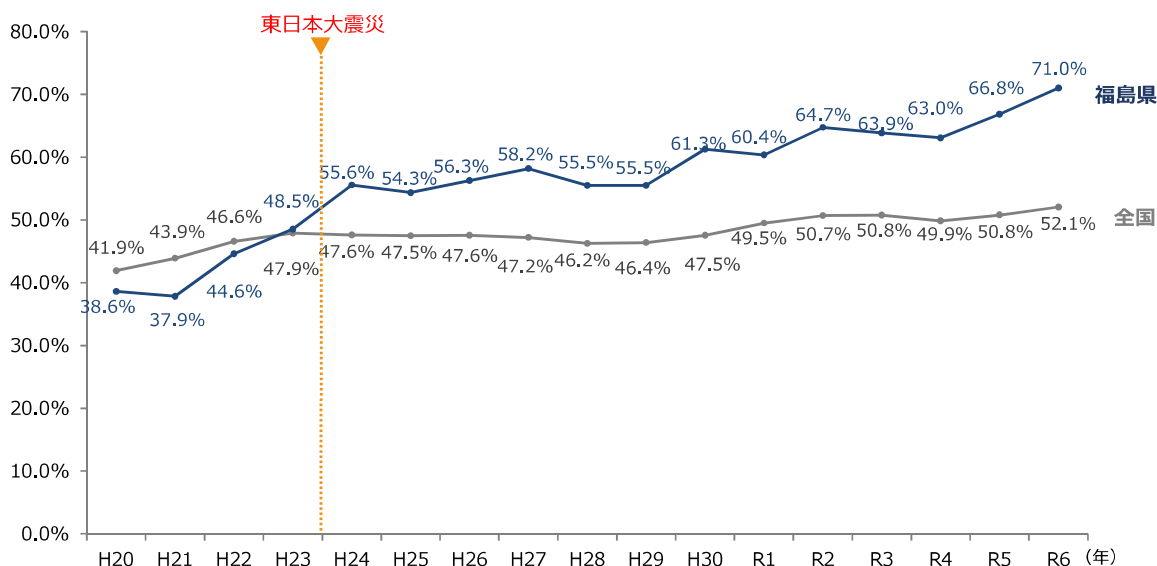
データ出所：農林水産省「畜産統計」

219

肉用牛の総飼養頭数に対する和牛の割合

肉用牛の総飼養頭数に占める和牛の割合は、震災後、全国平均が横ばいないし微増傾向で推移するなか、福島県産は平成20年以降、概ね増加傾向で、令和6年は、71.0%と全国平均の52.1%を大きく上回っている。

全国・福島県産肉用牛の総飼養頭数に対する和牛割合の推移



※飼養頭数は、毎年2月1日時点の値である（例：令和6年は、令和6年2月1日時点の飼養頭数）。

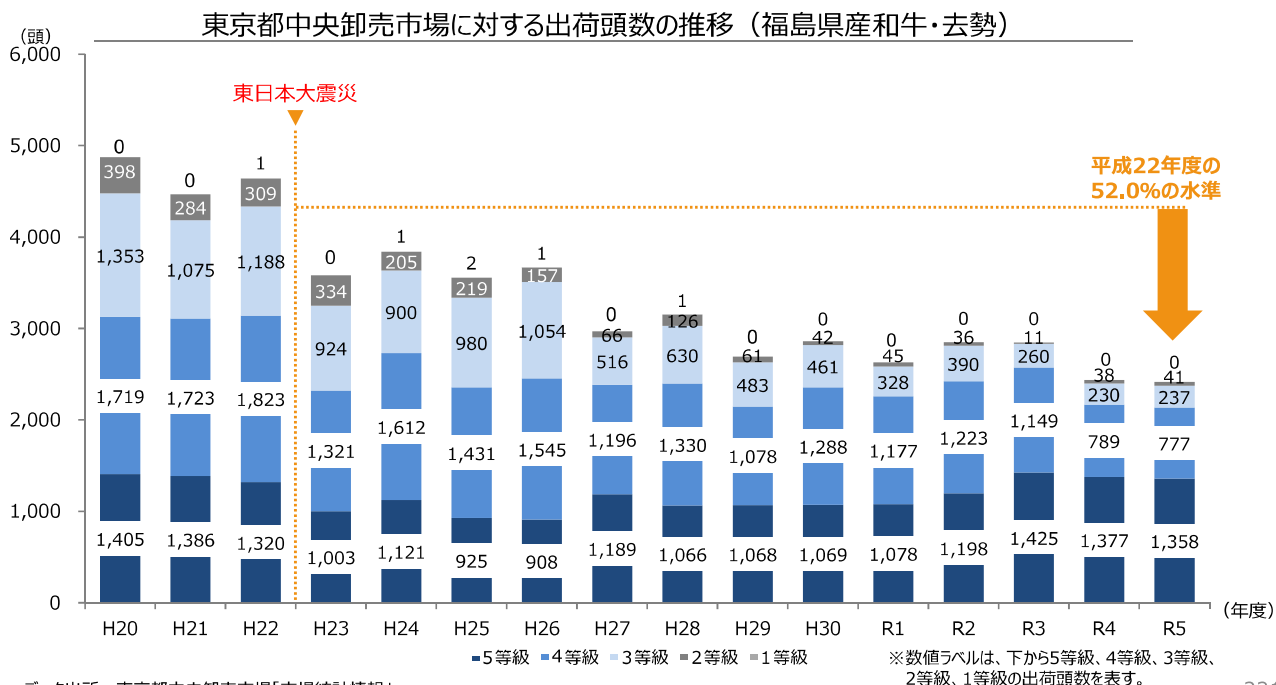
※和牛の割合は、「肉用種の肥育用牛の飼養頭数」/（「肉用種の肥育用牛の飼養頭数」＋「乳用種（ホルスタイン種他＋交雑種）の飼養頭数」）のことを指す。

データ出所：農林水産省「畜産統計」

220

東京都中央卸売市場に対する出荷頭数の推移（福島県産和牛・去勢）

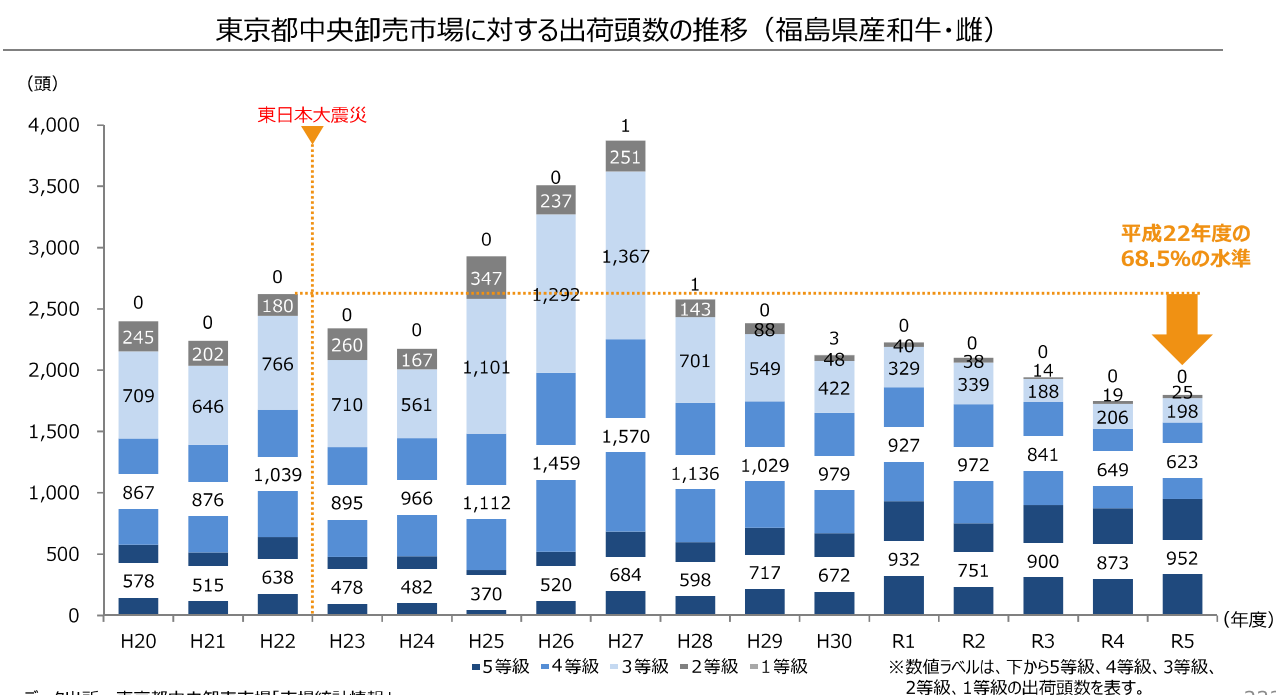
東京都中央卸売市場への福島県産和牛（去勢）の出荷頭数は、震災後、減少傾向で推移している。また、出荷頭数に占める上位等級（5等級・4等級）の割合は上昇傾向にあり、直近では90%前後の高い比率で推移。



221

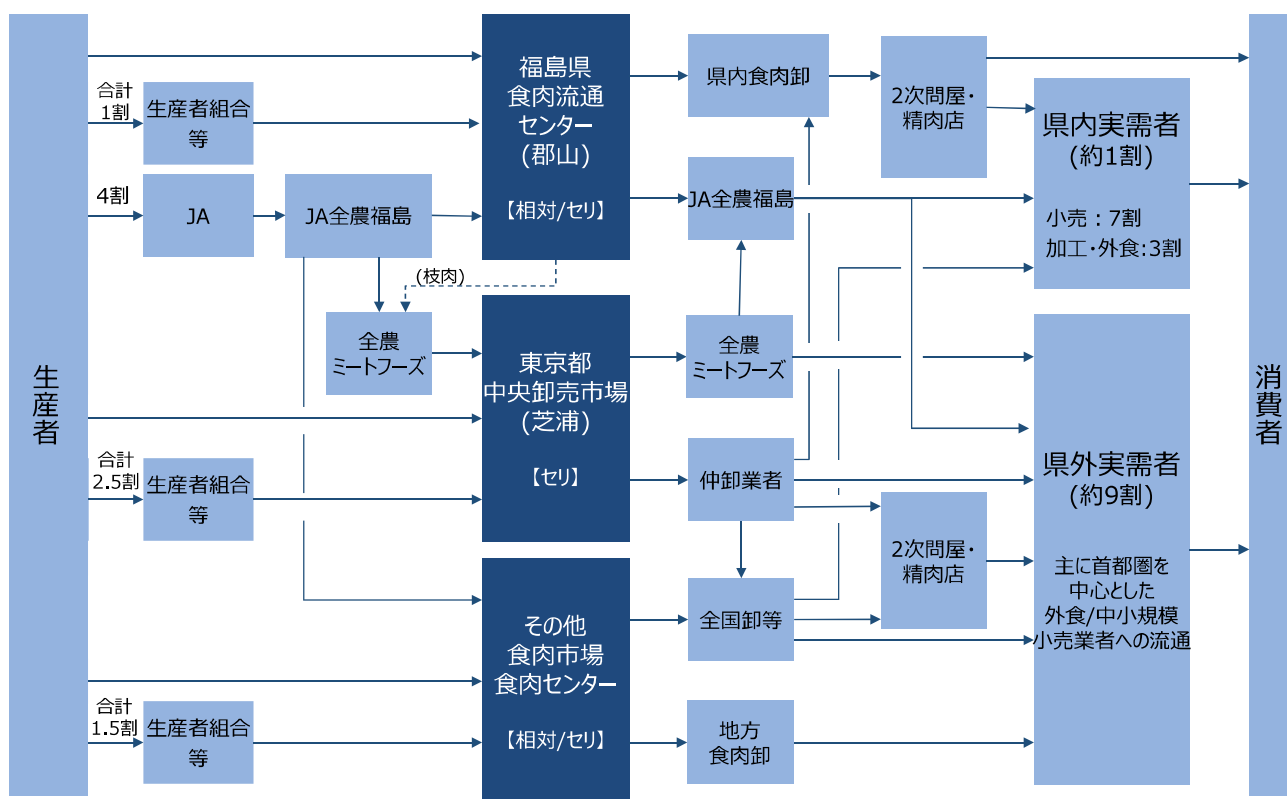
東京都中央卸売市場に対する出荷頭数の推移（福島県産和牛・雌）

東京都中央卸売市場への福島県産和牛（雌）の出荷頭数は、平成22年度から平成24年度まで減少したが、その後増加し、平成27年度にピークを迎えた。しかし、直近は減少傾向にあり、令和5年度は平成22年度の68.5%の水準となっている。



222

《参考》福島県産牛肉（和牛）の流通経路

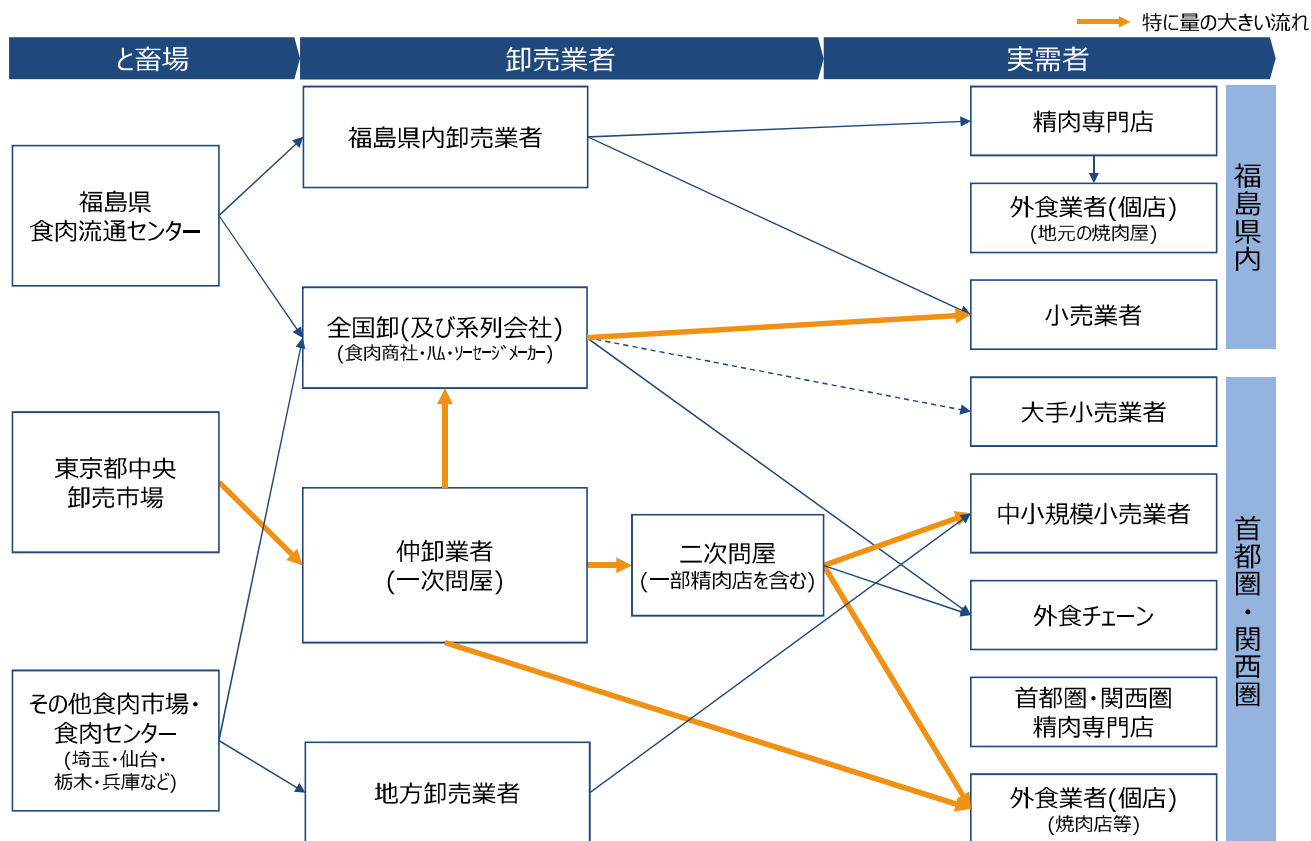


データ出所：福島県畜産課「福島畜産2015」及びヒアリング結果

※H29年度調査において作成。

223

《参考》福島県産牛肉の主要流通経路



出所：ヒアリング結果

※H29年度調査において作成。

224